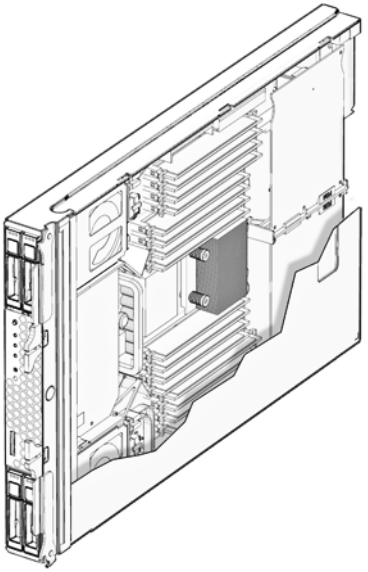
Sun Blade™ T6320 サーバー モジュール設置マニュアル



Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-4086-10
2008 年 1 月, Revision A

コメントの送付: http://www.sun.com/hwdocs/feedback

Copyright© 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に組み込まれた技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、http://www.sun.com/patents に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Java、OpenBoot、JumpStart、Sun Blade は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

PostScript のロゴマークは、Adobe Systems, Incorporated の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたは グラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書に記載されている製品および情報は、米国の輸出規制法に従うものであり、その他の国の輸出または輸入に関する法律が適用される場合もあります。核、ミサイル、化学生物兵器、または核の海上での最終使用あるいは最終使用者は、直接的または間接的にかかわらず厳重に禁止されています。米国の通商禁止対象国、または拒否された人物および特別認定国リストにかぎらず、米国の輸出禁止リストに指定されている実体への輸出または再輸出は、厳重に禁止されています。

予備の CPU の使用または交換は、米国の輸出法に従って輸出された製品に対する CPU の修理または 1 対 1 の交換に制限されています。米国政府の許可なしに、製品のアップグレードに CPU を使用することは、厳重に禁止されています。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *Sun Blade T6320 Server Module Installation Guide*
Part No: 820-2384-10
Revision A

Please Recycle

Adobe PostScript

目次

はじめに　v

1.　設置前の準備作業　1

ハードウェアの概要　1

物理仕様　2

環境要件　2

フロントパネルの機能　3

プリインストールされるソフトウェア　4

ILOM を使用した Sun Blade T6320 サーバーモジュールの管理　4

サービスプロセッサ　4

シャーシ管理モジュール　5

サーバーモジュール SP および CMM 上の ILOM　5

ILOM との通信の確立　5

シャーシ管理モジュールへのシリアルコンソールの接続　6

サーバーモジュールへのシリアルコンソールの接続　6

2.　設置および構成　9

サーバーモジュールの取り扱い　10

モジュールのシャーシへの設置　10

▼　サーバーモジュールを挿入する　10

ILOM ソフトウェアの設定　12

接続の概要　12

サーバーモジュール ILOM への接続　13

シャーシの CMM Ethernet ポートを介した接続　14

シャーシ CMM のシリアルコネクタを介したサーバーモジュール SP への接続　16

ドングルケーブルを使用したサーバーモジュール SP への接続　19

サーバーモジュール SP の IP アドレスの設定および表示　20

CMM を介したサーバーモジュール SP の IP アドレスの設定および表示　20

▼ DHCP から割り当てるサーバーモジュール SP の IP アドレスを表示または設定する － CMM を介する方法　21

▼ 静的 IP アドレスを使用するサーバーモジュール SP の IP アドレスを表示または設定する － CMM を介する方法　22

UCP を介したサーバーモジュール SP の IP アドレスの設定および表示　25

▼ DHCP から割り当てるサーバーモジュール SP の IP アドレスを表示または設定する － UCP を介する方法　25

▼ 静的 IP アドレスを使用するサーバーモジュール SP の IP アドレスを表示または設定する － UCP を介する方法　26

ILOM パスワードの変更およびホストの電源投入　27

▼ ILOM パスワードを変更する　27

▼ ホストの電源を入れる　27

サーバーモジュールの電源の投入および切断　28

▼ サービスプロセッサの初期構成用にスタンバイ電源を入れる　28

▼ すべてのサーバーコンポーネントの主電源を入れる　29

▼ 主電源モードを停止する　29

ハードドライブへの Solaris オペレーティングシステムのインストール　30

JumpStart サーバーのインストール　30

JumpStart サーバーの構成　31

はじめに

このマニュアルでは、Sun Blade™ T6320 サーバーモジュールに関する一般的な情報と、Sun Blade モジュラシステムへのサーバーモジュールの設置方法について説明します。

お読みになる前に

このマニュアルは、経験豊富なシステム管理者を対象としています。Sun Blade T6320 サーバーモジュールを設置する前に、次のマニュアルで説明している内容を十分に理解しておく必要があります。

- 『Sun Blade T6320 Server Module Product Notes』
- 使用している Sun Blade モジュラシステム (シャーシ) に付属の設置マニュアル
- 『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』
- 『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル Sun Blade T6320 サーバーモジュール』

詳細は、vii ページの「関連マニュアル」を参照してください。

UNIX コマンド

このマニュアルには、ファイルのコピー、ディレクトリの一覧表示、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX® コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル

- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル
  http://docs.sun.com

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	*machine-name*%
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	**マシン名% su** Password:
AaBbCc123	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm *filename* と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% **grep '^#define ** **XV_VERSION_STRING'**

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

関連マニュアル

Sun Blade T6320 サーバーモジュールのマニュアルは、次の URL で参照できます。

`http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.t6320`

追加の Sun 製品のマニュアルは、次の URL で参照できます。

`http://jp.sun.com/documentation`

用途	タイトル	Part No.
Sun Blade T6320 サーバーモジュールのマニュアル	『Where to Find Sun Blade T6320 Server Module Documentation』	820-3051
最新情報	『Sun Blade T6320 Server Module Product Notes』	820-2383
安全のための注意事項	『Sun Blade T6320 Server Module Safety and Compliance Guide』	820-2387
	『Important Safety Information About Sun Hardware』	816-7190
Integrated Lights Out Manager (ILOM) および管理	『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』	820-2698
	『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル Sun Blade T6320 サーバーモジュール』	820-4094
	使用している Sun Blade モジュラシステムの ILOM 関連マニュアルも参照してください。	
保守	『Sun Blade T6320 Server Module Service Manual』	820-2386
シャーシの設置	使用している Sun Blade モジュラシステムの設置マニュアルを参照してください。	

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

http://www.sun.com/hwdocs/feedback

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Blade T6320 サーバーモジュール設置マニュアル』、Part No. 820-4086-10

第 1 章

設置前の準備作業

この章では、Sun Blade T6320 サーバーモジュールのハードウェアおよびソフトウェアの機能を理解するために役立つ一般的な情報について説明します。

この章は、次の節で構成されています。

- 1 ページの「ハードウェアの概要」
- 2 ページの「物理仕様」
- 2 ページの「環境要件」
- 3 ページの「フロントパネルの機能」
- 4 ページの「プリインストールされるソフトウェア」
- 4 ページの「ILOM を使用した Sun Blade T6320 サーバーモジュールの管理」

ハードウェアの概要

Sun Blade T6320 サーバーモジュールには、次のハードウェア機能があります。

- 4 コア、6 コア、または 8 コア、最大 64 スレッド、最高 1.4 GHz の UltraSPARC® T2 プロセッサ 1 つ
- 4G バイト以上、64G バイト以下の容量をサポートする FBDIMM スロット 16 個
- デュアルギガビット Ethernet コントローラ 1 つ
- SAS/SATA コントローラ 1 つ
- SAS/SATA ドライブ 1 ～ 4 つ (オプション)
- ドングルケーブルに接続する USB ポート 2 つ (ドングルケーブルはオプション)
- ドングルケーブルに接続する DB-9 または RJ-45 シリアル仮想コンソールポート 1 つ (ドングルケーブルはオプション)

物理仕様

Sun Blade T6320 サーバーモジュールは約 12.9 × 20.1 × 1.7 インチで、1U のフォームファクタに適合します。このサーバーモジュールを Sun Blade モジュラシステム (シャーシ) に差し込みます。シャーシは各モジュールに、電源と、ファンによる冷却機能を提供します。シャーシは、主電源のほかに AUX 電力を各モジュールに提供して、ローカルの FRU ID EEPROM に電力を供給します。シャーシ管理モジュール (CMM) は、この AUX 電力によって、主電源およびファンのアプリケーションより先に各モジュールスロットに対してクエリーを実行し、シャーシに取り付けたモジュールの数と種類をサポートできるだけの十分な電力と冷却機能があることを検証できます。

環境要件

表 1-1 に、Sun Blade T6320 サーバーモジュールに固有の環境要件を示します。

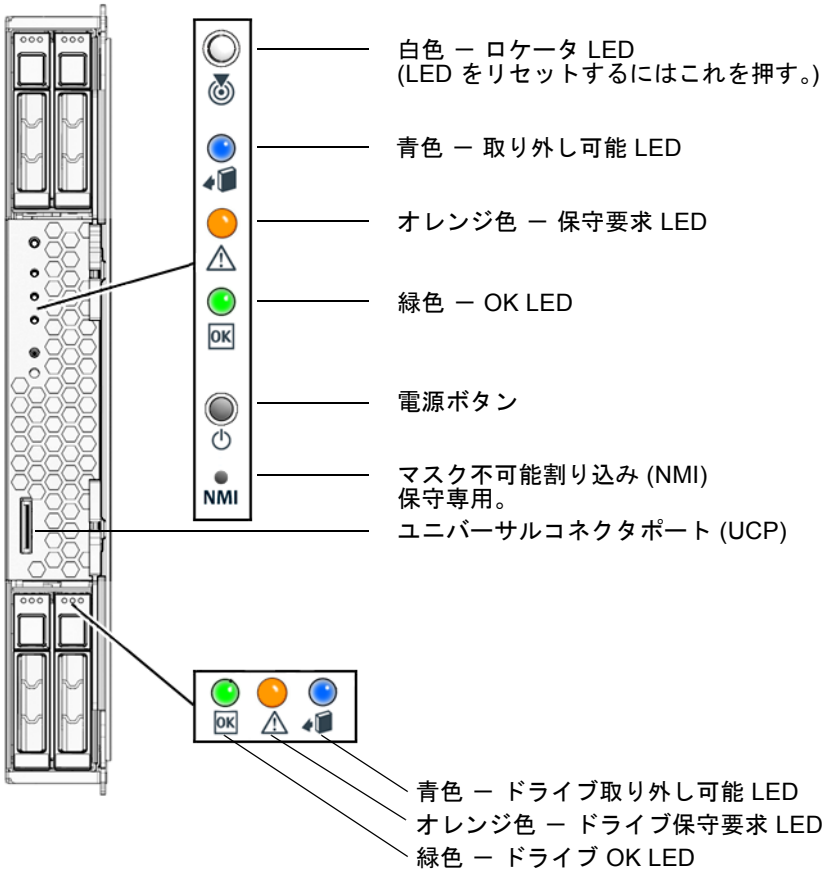
表 1-1 Sun Blade T6320 サーバーモジュールの環境要件

状態	要件
動作時の温度	5 ～ 35 ℃、結露なし
非動作時の温度	-40 ～ 65 ℃
動作時の湿度	10 ～ 90%、結露なし (最高湿球温度 27 ℃)
非動作時の湿度	93%、結露なし (最高湿球温度 38 ℃)
動作時の高度	35 ℃で 3048 m
非動作時の高度	12,000 m

フロントパネルの機能

図 1-1 に、フロントパネルとその機能の説明を示します。

図 1-1　　Sun Blade T6320 サーバーモジュールのフロントパネル



プリインストールされるソフトウェア

Sun Blade T6320 サーバーモジュールの注文時に、1 つ以上のハードディスクドライブの取り付けを指定できます。その場合、Solaris オペレーティングシステムソフトウェアおよびその他のソフトウェアが、ルートハードドライブにプリインストールされます。プリインストールされるソフトウェアについては、次の Web サイトを参照してください。

`http://www.sun.com/software/preinstall`

ルートハードドライブにプリインストールされるソフトウェアについては、『Sun Blade T6320 Server Module Product Notes』を参照してください。

ILOM を使用した Sun Blade T6320 サーバーモジュールの管理

Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) は、Sun Blade T6320 サーバーモジュールの監視、管理、および構成に使用できるシステム管理ファームウェアです。ILOM ファームウェアは、Sun Blade T6320 サーバーモジュールのサービスプロセッサ (SP) にプリインストールされており、システムに電源を入れるとすぐに初期化されます。ILOM へのアクセスには、Web ブラウザ、コマンド行インタフェース (CLI)、SNMP インタフェース、Intelligent Platform Management Interface (IPMI) などの複数のインタフェースを使用できます。ILOM は、ホストオペレーティングシステムの状態にかかわらず継続的に動作して「lights-out」管理システムを実現します。

ILOM の構成および使用法については、『Sun Integrated Lights Out Manager ユーザーズガイド』および『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル Sun Blade T6320 サーバーモジュール』を参照してください。

サービスプロセッサ

「サービスプロセッサ」(SP) は、システムの他のハードウェアから独立して動作するボードです。独自のインターネットプロトコル (IP) アドレスとメディアアクセス制御 (MAC) アドレスを持ち、他のシステムハードウェアの状態にかかわらず動作することができます。Sun Blade サーバーモジュールの SP は、サーバーモジュールが完全に動作可能な状態でも、電源が入っていない状態でも、その中間の状態にあっても

動作可能です。Sun Blade モジュラシステムおよびこのモジュラシステム内のすべてのサーバーモジュールは、それぞれ専用の SP を持ちます。サーバーモジュールによっては、サービスプロセッサを「システムコントローラ」と呼ぶ場合があります。

シャーシ管理モジュール

Sun Blade モジュラシステム (シャーシ) には、「シャーシ管理モジュール」(CMM) と呼ばれる Sun Blade モジュラシステム専用のサービスプロセッサがあります。CMM ILOM は、CMM にプリインストールされている ILOM ファームウェアの修正バージョンです。

Sun Blade T6320 サーバーモジュールを設置する前に、CMM ILOM を含む Sun Blade モジュラシステムの設置および構成を完了しておく必要があります。詳細は、使用している Sun Blade モジュラシステムの設置マニュアルを参照してください。

サーバーモジュール SP および CMM 上の ILOM

ILOM でシステムを管理するには、CMM を使用する方法、またはサーバーモジュールの SP を直接使用する方法の 2 つがあります。

- **シャーシ管理モジュールを使用する方法** − CMM からシステムを管理すると、個々のブレードサーバー SP の管理だけでなく、システム全体にわたってコンポーネントの設定および管理が可能になります。
- **サービスプロセッサを直接使用する方法** − Sun Blade サーバーモジュールの SP を管理すると、個々のサーバーモジュールの動作を管理できます。この方法は、特定のサービスプロセッサの障害追跡、または特定のサーバーモジュールへのアクセス制御を行うときに役立つ場合があります。

ILOM との通信の確立

ILOM との通信は、シリアル管理ポートへのコンソール接続を介して、または CMM のネットワーク管理ポートへの Ethernet 接続を介して確立することができます。ILOM に対して確立する接続の種類に応じて、実行できるタスクの種類が決まります。たとえば、遠隔からアクセスして ILOM のすべてのシステム管理機能を使用するには、Ethernet 接続と、サーバーモジュール SP および CMM への IP の割り当ての両方が必要です。ILOM の構成および使用法の詳細は、『Sun Integrated Lights Out Manager ユーザーズガイド』を参照してください。

シャーシ管理モジュールへのシリアルコンソールの接続

シリアルコンソールをシャーシ管理モジュール (CMM) に接続することができます。手順については、Sun Blade モジュラシステム (シャーシ) の設置マニュアルを参照してください。

サーバーモジュールへのシリアルコンソールの接続

Sun Blade T6320 サーバーモジュールと直接通信するには、シリアルコンソールと、サーバーモジュールのフロントパネルにあるユニバーサルコネクタポート (UCP) をドングルケーブルで接続します。詳細は、19 ページの「ドングルケーブルを使用したサーバーモジュール SP への接続」を参照してください。

注意 – ドングルケーブルは設定、テスト、または保守のために使用するもので、使用していないときには取り外す必要があります。ドングルケーブルは、電磁適合性 (EMC) への準拠が評価されていないため、通常のシステム動作時には使用できません。

Sun Blade T6320 サーバーモジュールとともにオプションのドングルケーブルを注文するか、Sun Blade モジュラシステムに付属のドングルケーブルを使用できます。表 1-2 に、UCP-3 または UCP-4 ドングルケーブルを使用してサーバーモジュールにシリアル接続を行うためのポートを示します。図 1-2 に、ドングルケーブルで実行可能な接続を示します。

表 1-2 ドングルケーブルのシリアルコネクタ

ドングルケーブル	シリアルコネクタ
UCP-3	RJ-45。
UCP-4	DB-9。オプションの DB-9/RJ-45 シリアルアダプタとともに使用できます。 **注 –** UCP-4 ドングルケーブルの RJ-45 コネクタは、Sun Blade T6320 サーバーモジュールでサポートされていません。

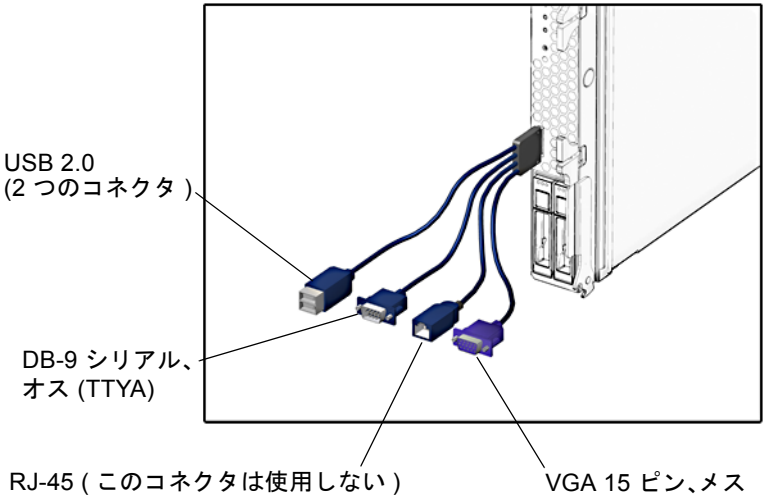
▼ ドングルケーブルを接続する

- **コネクタをサーバーモジュールの UCP にまっすぐ差し込みます。**

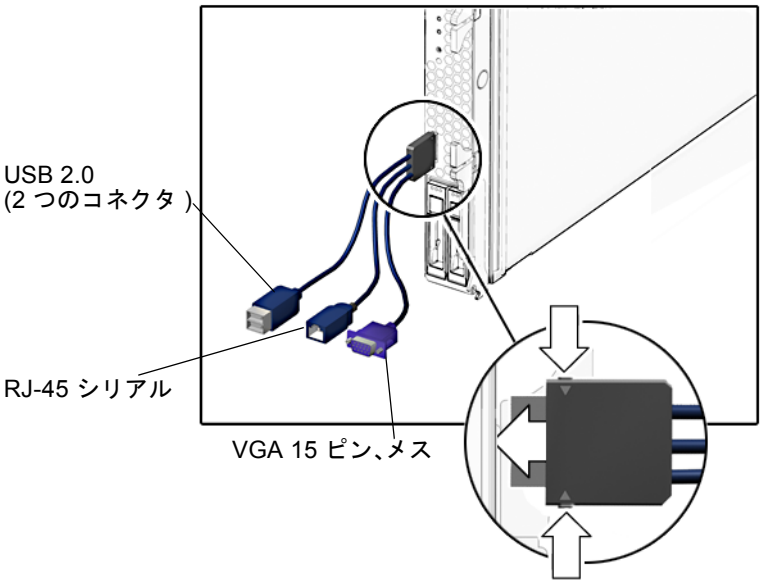
  図 1-2 に、UCP にドングルケーブルを接続する方法を示します。

図 1-2　　ドングルケーブルのコネクタ

4 コネクタのドングルケーブル (UCP-4)



3 コネクタのドングルケーブル (UCP-3)



第 2 章

設置および構成

Sun Blade T6320 サーバーモジュールの機能およびコンポーネントを理解したら、この章の手順を使用してシャーシにサーバーを設置します。

この章は、次の節で構成されています。

- 10 ページの「サーバーモジュールの取り扱い」
- 10 ページの「モジュールのシャーシへの設置」
  - 10 ページの「サーバーモジュールを挿入する」
- 12 ページの「ILOM ソフトウェアの設定」
  - 12 ページの「接続の概要」
  - 13 ページの「サーバーモジュール ILOM への接続」
  - 20 ページの「サーバーモジュール SP の IP アドレスの設定および表示」
  - 27 ページの「ILOM パスワードの変更およびホストの電源投入」
  - 27 ページの「ILOM パスワードを変更する」
  - 27 ページの「ホストの電源を入れる」
- 28 ページの「サーバーモジュールの電源の投入および切断」
  - 28 ページの「サービスプロセッサの初期構成用にスタンバイ電源を入れる」
  - 29 ページの「すべてのサーバーコンポーネントの主電源を入れる」
  - 29 ページの「主電源モードを停止する」
- 30 ページの「ハードドライブへの Solaris オペレーティングシステムのインストール」
  - 30 ページの「JumpStart サーバーのインストール」
  - 31 ページの「JumpStart サーバーの構成」

サーバーモジュールの取り扱い

電子機器は、静電気によって損傷する可能性があります。Sun Blade T6320 サーバーモジュールを設置するときは、アースされた静電気防止用リストストラップ、フットストラップ、または同等の安全器具を使用して、静電気による損傷 (ESD) を防いでください。

注意 – 電子コンポーネントが静電気によって損傷すると、システムが永久に使用できなくなるか、Sun の保守技術者による修復が必要になることがあります。電子コンポーネントを静電気による損傷から保護するため、静電気防止用マット、静電気防止袋、使い捨て静電気防止用マットなどの静電気防止面にコンポーネントを置いてください。システムコンポーネントを取り扱うときは、シャーシの金属面に接続された静電防止用アースストラップを着用してください。

モジュールのシャーシへの設置

▼ サーバーモジュールを挿入する

1. **出荷用梱包箱およびサーバーモジュールに付いているラベルで、MAC アドレスとシリアル番号を確認します。**

2. **モジュラシステム (シャーシ) の電源が入っていることを確認します。**

   28 ページの「サーバーモジュールの電源の投入および切断」、および Sun Blade モジュラシステムに付属のマニュアルを参照してください。

3. **シャーシで使用するスロットの位置を確認します。**

   モジュラシステムが電磁妨害 (EMI) に関する FCC 制限に確実に準拠するように、未使用スロットのほかのフィラーパネルは取り付けたままにします。

4. **必要に応じて、使用するスロットからフィラーパネルを取り外します。**

5. **(省略可能) 端末サーバーと、ドングルケーブルの仮想コンソールコネクタをシリアルケーブルで接続します。**

   ドングルケーブルを使用してサーバーモジュールに直接接続する予定である場合は、サーバーモジュールを挿入する前にドングルケーブルに端末サーバーを接続して、ILOM ファームウェアの起動メッセージを確認できるようにする必要があ

ります。詳細は、4 ページの「ILOM を使用した Sun Blade T6320 サーバーモジュールの管理」および 12 ページの「ILOM ソフトウェアの設定」の節を参照してください。

a. **サーバーモジュールにドングルケーブルを取り付けます。**

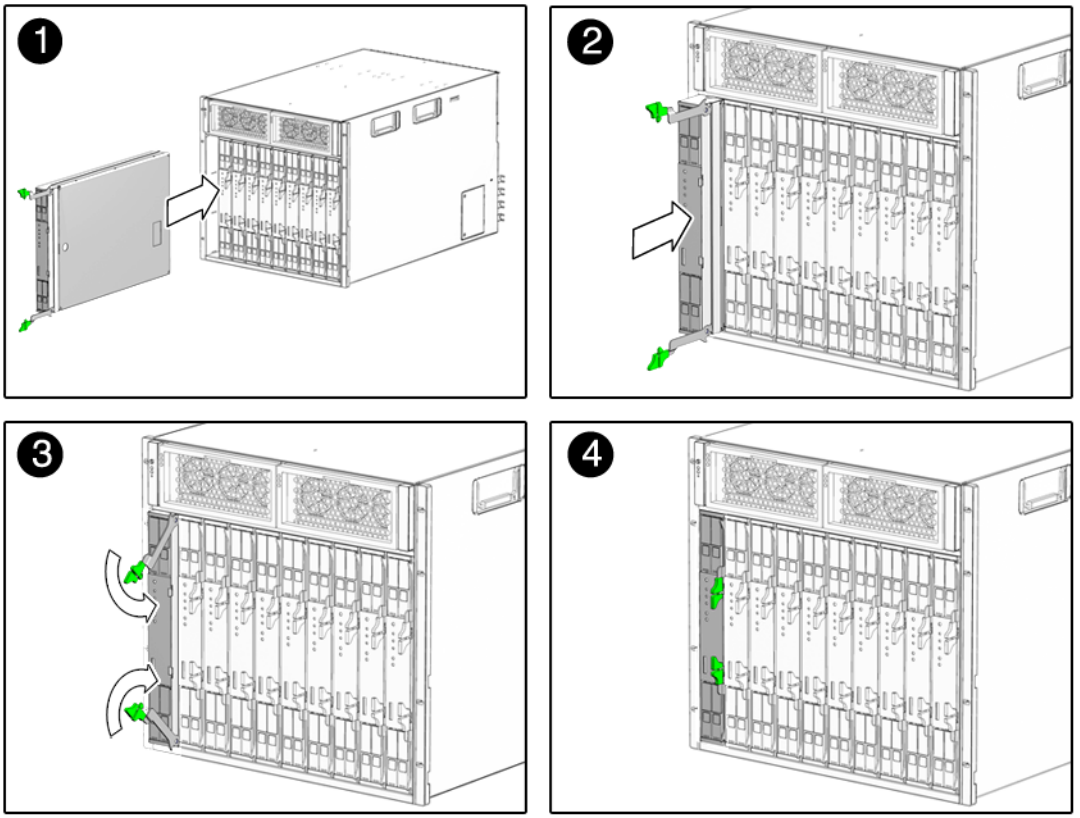
6 ページの「サーバーモジュールへのシリアルコンソールの接続」を参照してください。

b. **端末サーバーと、ドングルケーブルの仮想コンソールコネクタをシリアルケーブルで接続します。**

6. **取り外しレバーが右側になるように、サーバーモジュールを垂直に配置します。**

図 2-1 に、サーバーモジュールのシャーシへの挿入方法を示します。ボックス 1 を参照してください。

図 2-1　Sun Blade T6320 サーバーモジュールの Sun Blade モジュラシステムへの挿入



7. **サーバーモジュールをスロットに入れ、シャーシの正面から 1.5 cm (1/2 インチ) 手前の位置まで押し込みます。**

   図 2-1 のボックス 2 を参照してください。

8. **取り外しレバーを、カチッと音を立ててかみ合うまで押し下げます。**

   図 2-1 のボックス 3 および 4 を参照してください。サーバーモジュールとモジュラシステムの面がそろい、取り外しレバーがロックされます。

サーバーモジュールをシャーシに挿入するとすぐに、サーバーモジュールがスタンバイモードになり、ILOM サービスプロセッサが初期化されます。

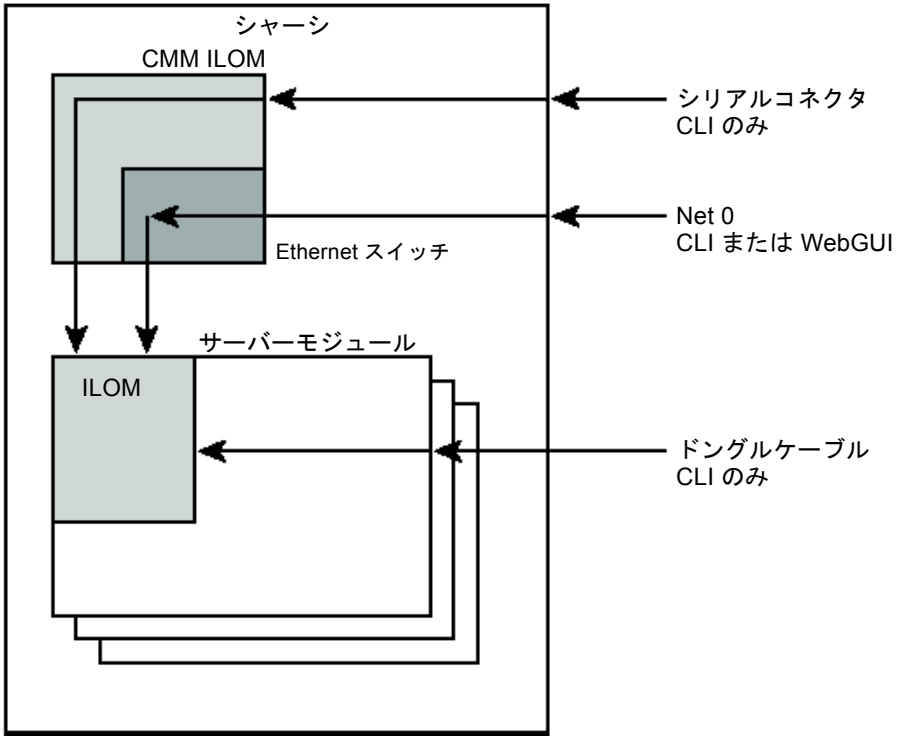
ILOM ソフトウェアの設定

サーバーモジュールの設置を続行する前に、SP に接続できることを確認する必要があります。

接続の概要

図 2-2 に、サーバーモジュールの SP および ILOM ソフトウェアへの接続を示します。

図 2-2　　CMM およびサーバーモジュールの接続オプション



サーバーモジュール ILOM への接続

この節では、次に示すいずれかの手段を使用してサーバーモジュール SP に接続する方法について説明します。これらの方法については、対応する節で説明します。

- **Ethernet ポートを介して CMM に接続する。**この方法では、コマンド行インタフェース (CLI) および Web インタフェースの両方からのアクセスがサポートされます。Web インタフェースは、「WebGUI」、「ブラウザユーザーインタフェース」、または「BUI」と呼ばれることもあります。モジュラシステムシャーシの Ethernet ポートは、CMM およびサーバーモジュール SP に対するもっとも安定した接続手段となります。14 ページの「シャーシの CMM Ethernet ポートを介した接続」を参照してください。
- **シャーシのシリアルコネクタを介して CMM に接続する。**その後、CMM ILOM を使用してサーバーモジュールの SP およびその ILOM ファームウェアにナビゲートします。この方法では、CLI アクセスのみがサポートされます。16 ページの「シャーシ CMM のシリアルコネクタを介したサーバーモジュール SP への接続」を参照してください。

- **ドングルケーブルを使用して、シリアル接続を介してサーバーモジュール SP に直接接続する。**ドングルケーブルは設定、テスト、または保守のために使用するもので、使用していないときには取り外す必要があります。この方法では、CLI アクセスのみがサポートされます。19 ページの「ドングルケーブルを使用したサーバーモジュール SP への接続」を参照してください。

シャーシの CMM Ethernet ポートを介した接続

モジュラシステムシャーシの Ethernet ポートは、CMM およびサーバーモジュール SP に対するもっとも安定した接続手段となります。この接続方法では、CLI と Web インタフェースの両方をサポートしています。

CMM には、RJ-45 NET MGT 0 Ethernet ポートを介して接続できます。

Ethernet 接続を使用するには、あらかじめ接続先の CMM およびサーバーモジュール SP の IP アドレスがわかっている必要があります。T6320 サーバーモジュールで IP アドレスを設定する方法については、20 ページの「サーバーモジュール SP の IP アドレスの設定および表示」を参照してください。

▼ CLI を使用して SP に対してログインまたはログアウトを実行する

ILOM は、Ethernet を介した CLI への SSH アクセスをサポートしています。

1. **SSH クライアントを起動します。**
2. **目的の IP にログインします。**

```
$ ssh root@ipaddress
```

3. **プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。**

注 – デフォルトのユーザー名は **root** で、デフォルトのパスワードは **changeme** です。デフォルトのパスワードの変更方法については、27 ページの「ILOM パスワードの変更およびホストの電源投入」を参照してください。

次に例を示します。

```
$ ssh root@192.168.25.25
root@192.168.25.25's password:
Sun Integrated Lights Out Manager
Version 1.0
Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Warning: password is set to factory default.
```

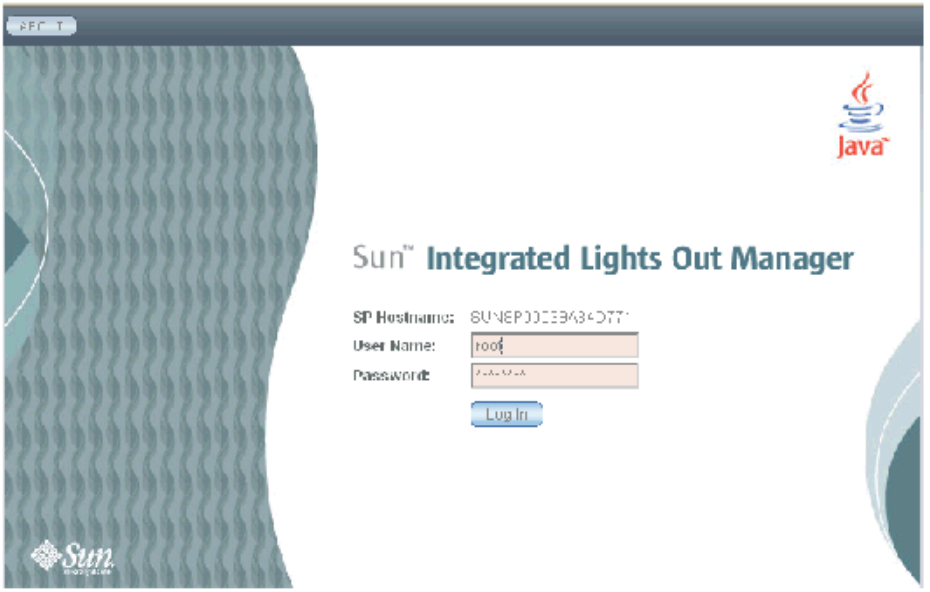
4. **exit** と入力してログアウトします。

▼ Web インタフェースを使用して SP に対してログインまたはログアウトを実行する

1. Web インタフェースにログインするには、Web ブラウザで目的の SP の IP アドレスを入力します。

   ログイン画面が表示されます。

   図 2-3　　Web インタフェースのログイン画面



2. ユーザー名およびパスワードを入力します。

   Web インタフェースへのアクセスをはじめて試みた場合、デフォルトのユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。デフォルトのユーザー名およびパスワードは次のとおりです。

   - デフォルトのユーザー名 － `root`
   - デフォルトのパスワード － `changeme`

   デフォルトのユーザー名とパスワードは、小文字です。デフォルトのパスワードの変更方法については、27 ページの「ILOM パスワードの変更およびホストの電源投入」を参照してください。

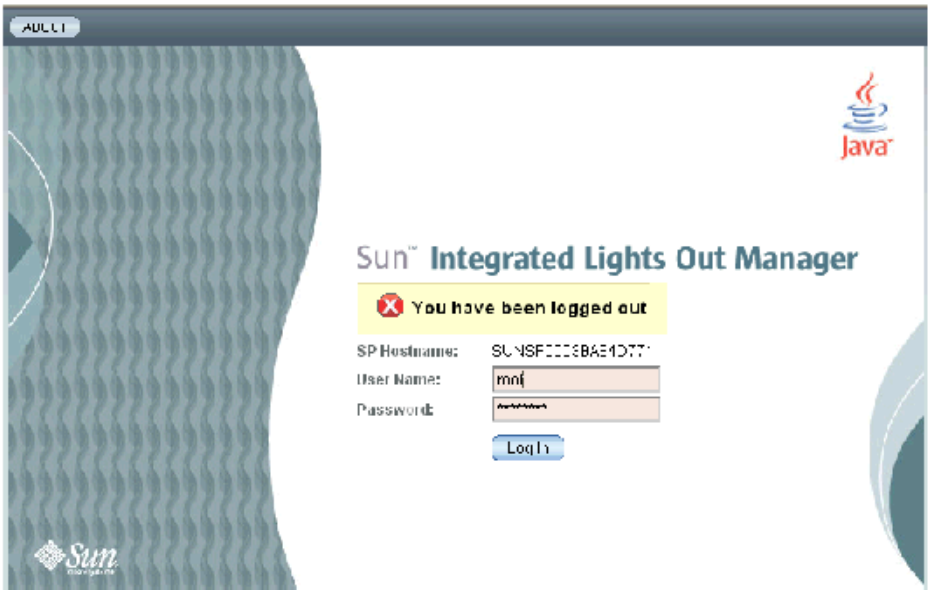
3. 「Log In」をクリックします。

   Web インタフェースが表示されます。

4. Web インタフェースからログアウトするには、画面右上の「Log Out」ボタンをクリックします。

   ログアウト画面が表示されます。

   図 2-4　　Web インタフェースのログアウト確認画面



シャーシ CMM のシリアルコネクタを介したサーバーモジュール SP への接続

端末または端末エミュレータをシャーシの RJ-45 シリアルポートに接続することにより、CMM ILOM にアクセスできます。サーバーモジュールをモジュラシステムシャーシに設置すると、CMM ILOM ソフトウェアで CLI を使用して、サーバーモジュール SP に接続することができます。

▼ シャーシのシリアルコネクタを介して接続する

1. 使用している端末、ラップトップ、または端末サーバーが動作していることを確認します。

2. **『Sun Integrated Lights Out Manager ユーザーズガイド』で説明する設定を使用して、端末デバイスまたは端末エミュレーションソフトウェアを構成します。**
   - 8N1: 8 データビット、パリティなし、1 ストップビット
   - 9600 ボー (デフォルト値、57600 までの任意の標準速度を設定可能)
   - ハードウェアフロー制御 (CTS/RTS) の無効化
3. **シャーシのシリアルポートと端末デバイスを、シリアルケーブルで接続します。**

   シリアルポートの場所については、モジュラシステムシャーシに関するマニュアルを参照してください。

注 – シリアルポートには、表 2-1 で説明するピン配列が必要です。これらの配列は、Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) または Remote System Control (RSC) 用のシリアルケーブルコネクタと同じです。

表 2-1 シリアル管理ポートのピン配列

ピン	信号の説明
1	Request To Send (RTS)
2	Data Terminal Ready (DTR)
3	Transmit Data (TXD)
4	Ground
5	Ground
6	Receive Data (RXD)
7	Data Carrier Detect (DCD)
8	Clear To Send (CTS)

4. **端末デバイスで Enter を押します。**

   端末デバイスと CMM の間の接続が確立されます。

注 – シリアルポートへの端末またはエミュレータの接続を、端末またはエミュレータの電源投入完了前、または電源投入シーケンス中に行なった場合は、起動メッセージが表示されます。

システムの起動が完了すると、CMM ILOM ソフトウェアはログインプロンプトを表示します。

```
SUNCMMnnnnnnnnnn login:
```

プロンプトの最初の文字列は、デフォルトのホスト名です。このホスト名は、接頭字 SUNCMM と CMM ILOM の MAC アドレスで構成されます。各サービスプロセッサの MAC アドレスは一意です。

5. CMM ILOM ソフトウェアにログインします。

   a. デフォルトユーザー名の `root` を入力します。

   b. デフォルトパスワードの `changeme` を入力します。

   正常にログインすると、CMM ILOM に次に示すデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

```
->
```

これで、CMM ILOM ソフトウェアの CLI に接続されました。

デフォルトのパスワードの変更方法については、27 ページの「ILOM パスワードの変更およびホストの電源投入」を参照してください。

6. 次のコマンドを入力して、サーバーモジュール ILOM にナビゲートします。

```
-> cd /CH/BLn/SP/cli
```

n は、対象のサーバーモジュールの識別子を表わす整数 (0 ～ 9) です。

7. `start` コマンドを入力します。

   プロンプトが表示されます。

8. `y` を入力して続行するか、`n` を入力して取り消します。

   y を入力すると、サーバーモジュール SP で動作している ILOM ソフトウェアは、そのサーバーモジュール SP に固有のパスワードの入力を求めるプロンプトを表示します。

注 – CMM ILOM は、`/CH/BLn/SP/cli` (*n* はサーバーモジュールの番号) の下の `user` ターゲット内のユーザー名を使用してサーバーモジュール ILOM にログオンします。

---

9. **プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。**

   デフォルトのパスワードは changeme です。

   サーバーモジュールの ILOM プロンプトが表示されます。

   デフォルトのパスワードの変更方法については、27 ページの「ILOM パスワードの変更およびホストの電源投入」を参照してください。

10. **完了したら、exit を入力します。**

   サーバーモジュール ILOM が終了し、CMM CLI プロンプトが表示されます。

   次に、ログイン画面の例を示します。

```
 -> cd /CH/BL2/SP/cli
/CH/BL2/SP/cli

-> start
Are you sure you want to start /CH/BL2/SP/cli (y/n)? y
Password:          サーバーモジュール SP の ILOM パスワードを入力する。

Sun(TM) Integrated Lights Out Manager

Version 2.0

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.

Warning: password is set to factory default.

-> exit            exit コマンドを入力してサーバーモジュール SP を終了し
CMM に戻る。
Connection to 10.6.153.33 closed.
```

ドングルケーブルを使用したサーバーモジュール SP への接続

ドングルケーブルを使用すると、端末とサーバーモジュールを直接接続できます。

注意 – ドングルケーブルは設定、テスト、または保守のために使用するもので、使用していないときには取り外す必要があります。ドングルケーブルは、電磁適合性 (EMC) への準拠が評価されていないため、通常のシステム動作時には使用できません。

▼ ドングルケーブルを使用してサーバーモジュール SP に接続する

1. **サーバーモジュールの正面にある UCP ポートにドングルケーブルを接続します。**

   UCP ドングルケーブルの接続方法については、6 ページの「サーバーモジュールへのシリアルコンソールの接続」を参照してください。

2. **端末または端末エミュレータを、ドングルケーブルのシリアルコネクタに接続します。**

   ILOM ログインプロンプトが表示されます。

3. **プロンプトが表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。**

   デフォルトのユーザーは `root` で、デフォルトのパスワードは `changeme` です。

   サーバーモジュールの ILOM プロンプトが表示されます。

   デフォルトのパスワードの変更方法については、27 ページの「ILOM パスワードの変更およびホストの電源投入」を参照してください。

4. **完了したら、次のように入力して ILOM ソフトウェアを終了します。**

```
-> exit
```

サーバーモジュール SP の IP アドレスの設定および表示

T6320 サーバーモジュール SP のネットワーク IP アドレスは、次の 2 つの方法で設定および表示できます。

- Sun Blade モジュラシステムシャーシ内の CMM に接続します。

  20 ページの「CMM を介したサーバーモジュール SP の IP アドレスの設定および表示」を参照してください。

- T6320 サーバーモジュール SP に直接接続します。

  25 ページの「UCP を介したサーバーモジュール SP の IP アドレスの設定および表示」を参照してください。

CMM を介したサーバーモジュール SP の IP アドレスの設定および表示

シリアルポートまたは Ethernet ポートを介して、モジュラシステムシャーシの CMM に接続することができます。

- CMM シリアルポート — 端末デバイスを接続できます。16 ページの「シャーシ CMM のシリアルコネクタを介したサーバーモジュール SP への接続」を参照してください。
- CMM Ethernet ポート — 管理ネットワークに接続できます。14 ページの「シャーシの CMM Ethernet ポートを介した接続」を参照してください。

これらのポートのいずれかを使用して CMM に接続したあとは、CMM ILOM ソフトウェアにログインして、サーバーモジュールの IP アドレスと、その IP アドレスを DHCP によって割り当てるか、または静的 IP アドレスにするかを設定および表示することができます。

▼ DHCP から割り当てるサーバーモジュール SP の IP アドレスを表示または設定する — CMM を介する方法

1. **使用している DHCP サーバーが、新しいメディアアクセス制御 (MAC) アドレスを受け入れるように構成されていることを確認します。**
2. **CMM のシリアルまたは Ethernet ポートを使用して CMM に接続します。**
3. **DHCP がサーバーモジュール SP に割り当てた IP アドレスを確認します。**

   DHCP サーバーによって、有効な IP アドレスがサーバーモジュール SP にすでに割り当てられている場合があります。割り当てられた IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /CH/BLn/SP/network ipaddress
```

   n は、対象のサーバーモジュールが設置されているスロットを表わす整数です。CMM ILOM ソフトウェアは、サーバーモジュール SP に現在割り当てられている IP アドレスを表示します。

   割り当てられている IP アドレスが有効でない場合は、そのサーバーモジュール SP の MAC アドレスを DHCP システム管理者に提供する必要があります。その場合は、手順 4 に進みます。

4. **サーバーモジュール SP の MAC アドレスを確認します。**

   MAC アドレスは、*xx:xx:xx:xx:xx:xx* という書式の、12 桁の 16 進数による文字列です。*x* は 16 進表記の 1 文字 (0 ～ 9、A ～ F、a ～ f) を表わします。MAC アドレスは、サーバーモジュールに付属する Customer Information という文書に記載されています。また、次の手順を実行することでも確認できます。

a. CMM ILOM ソフトウェアにログインし、次のコマンドを入力します。

```
-> show /CH/BLn/SP/network macaddress
```

n は、対象のサーバーモジュールが設置されているスロットを表わす整数です。CMM ILOM ソフトウェアは、現在の MAC アドレスを表示します。

b. MAC アドレスを書き留め、DHCP サーバーの構成に使用します。

5. DHCP がサーバーモジュール SP に割り当てた IP アドレスを表示します。

有効な IP アドレスがサーバーモジュールに割り当てられたら、手順 3 の説明に従って、その IP アドレスを表示します。

▼ 静的 IP アドレスを使用するサーバーモジュール SP の IP アドレスを表示または設定する – CMM を介する方法

1. CMM のシリアルまたは Ethernet ポートを使用して CMM に接続します。
2. (省略可能) IP アドレスを表示します。
   - IP アドレスに関連する情報をすべて表示するには、次のように入力します。

```
-> show /CH/BLn/SP/network
```

   - IP アドレスのみを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /CH/BLn/SP/network ipaddress
```

3. 次のコマンドを入力して、`/CH/BLn/SP/network` にナビゲートします。

```
-> cd /CH/BLn/SP/network
```

4. 次のコマンドを入力します。
   - 静的な Ethernet 構成を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
-> set pendingipdiscovery=static
-> set pendingipaddress=xxx.xxx.xx.xx
-> set pendingipnetmask=yyy.yyy.yyy.y
-> set pendingipgateway=zzz.zzz.zz.zzz
-> set commitpending=true
```

xxx.xxx.xx.xx、*yyy.yyy.yyy.y*、および *zzz.zzz.zz.zzz* は、使用している ILOM とネットワーク構成の IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイです。これらのアドレスを確認するには、システム管理者に問い合わせてください。

- 動的な Ethernet 構成に戻すには、次のコマンドを実行します。

```
-> set pendingipdiscovery=dhcp
-> set commitpending=true
```

次の画面例に、ユーザーが静的設定を表示し、設定を変更して動的にし、新しい設定を表示する標準的なセッションを示します。

```
-> cd /CH/BL2/SP/network

-> show

/CH/BL2/SP/network
   Targets:

   Properties:
       commitpending = (Cannot show property)
       ipaddress = 10.6.42.42
       ipdiscovery = static
       ipgateway = 10.6.42.1
       ipnetmask = 255.255.255.0
       macaddress = 00:14:4F:3A:26:74
       pendingipaddress = 10.6.42.42
       pendingipdiscovery = static
       pendingipgateway = 10.6.42.1
       pendingipnetmask = 255.255.255.0

   Commands:
       cd
       set
       show


-> set pendingipdiscovery=dhcp
Set 'pendingipdiscovery' to 'dhcp'

-> set commitpending=true
Set 'commitpending' to 'true'

-> show

/CH/BL2/SP/network
   Targets:

   Properties:
       commitpending = (Cannot show property)
       ipaddress = 10.6.42.191
       ipdiscovery = dhcp
       ipgateway = 10.6.42.1
       ipnetmask = 255.255.255.0
       macaddress = 00:14:4F:3A:26:74
       pendingipaddress = 10.6.42.191
       pendingipdiscovery = dhcp
       pendingipgateway = 10.6.42.1
       pendingipnetmask = 255.255.255.0

   Commands:
       cd
       set
       show
```

UCP を介したサーバーモジュール SP の IP アドレスの設定および表示

サーバーモジュール SP には、次に示す方法のいずれかを使用して接続できます。

- **ドングルケーブルを使用してフロントパネルのユニバーサルコネクタポート (UCP) を使用する方法。**
- **SP Ethernet ポートを使用する方法。**この方法を使用するには IP アドレスをすでに知っている必要があるため、構成には役立ちません。

▼ DHCP から割り当てるサーバーモジュール SP の IP アドレスを表示または設定する – UCP を介する方法

1. **使用している DHCP サーバーが、新しいメディアアクセス制御 (MAC) アドレスを受け入れるように構成されていることを確認します。**

2. **ドングルケーブルを使用して、フロントパネルの UCP を介してサーバーモジュール SP に接続します。**

   19 ページの「ドングルケーブルを使用したサーバーモジュール SP への接続」を参照してください。

3. **DHCP がサーバーモジュール SP に割り当てた IP アドレスを確認します。**

   DHCP サーバーによって、有効な IP アドレスがサーバーモジュール SP にすでに割り当てられている場合があります。割り当てられた IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/network ipaddress
```

   ILOM ソフトウェアは、サーバーモジュール SP に現在割り当てられている IP アドレスを表示します。

   割り当てられている IP アドレスが有効でない場合は、そのサーバーモジュール SP の MAC アドレスを DHCP システム管理者に提供する必要があります。その場合は、手順 4 に進みます。

4. **サーバーモジュール SP の MAC アドレスを確認します。**

   MAC アドレスは、*xx:xx:xx:xx:xx:xx* という書式の、12 桁の 16 進数による文字列です。*x* は 16 進表記の 1 文字 (0 ～ 9、A ～ F、a ～ f) を表わします。MAC アドレスは、サーバーモジュールに付属する Customer Information という文書に記載されています。また、次の手順を実行することでも確認できます。

   a. **次のコマンドを入力します。**

```
-> show /SP/network macaddress
```

ILOM ソフトウェアは、現在の MAC アドレスを表示します。

b. MAC アドレスを書き留め、DHCP サーバーの構成に使用します。

5. DHCP がサーバーモジュール SP に割り当てた IP アドレスを表示します。

有効な IP アドレスがサーバーモジュールに割り当てられたら、その IP アドレスを表示します。手順 3 を参照してください。

▼ 静的 IP アドレスを使用するサーバーモジュール SP の IP アドレスを表示または設定する – UCP を介する方法

1. ドングルケーブルを使用して、フロントパネルの UCP を介してサーバーモジュール SP に接続します。

19 ページの「ドングルケーブルを使用したサーバーモジュール SP への接続」を参照してください。

2. (省略可能) IP アドレスを表示します。

- IP アドレスに関連する情報をすべて表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/network
```

- IP アドレスのみを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/network ipaddress
```

3. 22 ページの「静的 IP アドレスを使用するサーバーモジュール SP の IP アドレスを表示または設定する – CMM を介する方法」の手順 3 以降を実行します。

これらの手順が完了したら、次の手順 4 に進みます。

4. 完了したら、`exit` と入力して SP 上の ILOM ソフトウェアを終了します。

- CMM ILOM を介してサーバーモジュール ILOM に接続した場合は、CMM ILOM に戻ります。
- SSH を使用して ILOM に接続した場合は、異なる IP アドレスでログインしているため、接続は自動的に切断されます。

ILOM パスワードの変更およびホストの電源投入

▼ ILOM パスワードを変更する

1. サーバーモジュール SP の最初のログインプロンプトで、管理者のデフォルトのユーザー名およびパスワードを使用してログインします。

```
hostname login: root
Password: changeme
```

2. ILOM パスワードコマンドを使用して、パスワードを変更します。

```
-> set /SP/users/root password
Enter new password: *******
Enter new password again: *******
->
```

root のパスワードを設定すると、それ以降の再起動時に、ILOM CLI ログインプロンプトが表示されるようになります。

▼ ホストの電源を入れる

サービスプロセッサのはじめての起動時には、サービスプロセッサの起動後に、ILOM CLI プロンプト (->) が表示されます。

1. `start /SYS` コマンドを実行します。

   システムコンソールに ILOM の -> プロンプトが表示されます。これは、システムがリセットされたことを示しています。`start /SYS` コマンドを実行します。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
Starting /SYS
```

2. `start /SP/console` コマンドを実行します。

```
-> start /SP/console
Are you sure you want to start /SP/console (y/n)? y
Serial console started.  To stop, type #.

0:0:0>Scrub Memory....Done
0:0:0>SPU CWQ Tests...Done
0:0:0>MAU Tests...Done
```

start コマンドを実行すると、CPU およびメモリーコントローラが初期化され、その結果 OpenBoot™ PROM (OBP) ファームウェアが初期化されます。Solaris OS がインストールされた起動デバイスがローカルからアクセス可能である場合は、そのデバイスが起動されます。ローカルからアクセスできない場合、システムは boot net コマンドを使用してネットワーク上の起動デバイスをシークします。

サーバーモジュールの電源の投入および切断

サービスプロセッサ (SP) の初期構成を実行するには、初期構成の前にサーバーのスタンバイ電源を入れておく必要があります。主電源モードで電源を入れる手順と、主電源モードから停止する手順についても、この節で説明します。詳細は、使用している Sun Blade モジュラシステムのマニュアルを参照してください。

▼ サービスプロセッサの初期構成用にスタンバイ電源を入れる

初期構成の**前**に、サービスプロセッサ (SP) のスタンバイ電源を入れるには、次の手順を実行します。

1. **アースされた AC 電源コードを、シャーシの背面パネルの AC 電源コネクタと、アースされた AC 電源コンセントに接続します。**

   詳細は、使用しているシャーシのマニュアルを参照してください。

   スタンバイ電源モードの場合、サーバーのフロントパネルにある OK LED が点滅して、SP が動作中であることを示します。この LED の場所については、を参照してください。

注 – この時点では、スタンバイ電源は Graphics Redirect and Service Processor ボード、および電源装置のファンにのみ供給されています。

---

2. **ソフトウェアの初期設定作業を続行します。**

   12 ページの「ILOM ソフトウェアの設定」を参照してください。

▼ すべてのサーバーコンポーネントの主電源を入れる

1. **スタンバイ電源が投入されていることを確認します。**

   スタンバイ電源モードの場合、フロントパネルの OK LED が点滅します。を参照してください。

2. **先のとがったものまたは針を使用して、サーバーのフロントパネルにある埋め込み式の電源ボタンを押して離します。**

   サーバー全体に主電源が供給されている場合、電源ボタンの上にある電源/OK LED が点灯し、そのまま点灯し続けます。

▼ 主電源モードを停止する

主電源モードからサーバーの電源を切るには、次の 2 つの方法のいずれかを使用します。

- **正常な停止。**先のとがったものまたは針を使用して、フロントパネルの電源ボタンを押して離します。この操作により、Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) 対応のオペレーティングシステムは、オペレーティングシステムの正常な停止を実行します。ACPI 対応のオペレーティングシステムが動作していないサーバーは、すぐに停止してスタンバイ電源モードになります。
- **緊急停止。**電源ボタンを 4 秒間押し続けて、主電源を強制的に切りスタンバイ電源モードに切り替えます。

主電源が切断されると、フロントパネルの電源/OK LED は点滅し始めて、サーバーがスタンバイ電源モードに切り替わっていることを示します。

注 – サーバーの電源を完全に切るには、シャーシからそのサーバーモジュールを取り外すか、シャーシの背面パネルから AC 電源コードを外す必要があります。

ハードドライブへの Solaris オペレーティングシステムのインストール

基本構成の Sun Blade T6320 サーバーモジュールは、ハードドライブ付きで出荷されるか、またはハードドライブなしで出荷されます。オプションでソフトウェアがプリインストールされたハードドライブを注文した場合は、4 ページの「プリインストールされるソフトウェア」を参照してください。

オプションでソフトウェアがプリインストールされていないハードドライブを注文し、そのハードドライブをスロット 0 に設置して Solaris OS をインストールする場合は、ネットワークからオペレーティングシステムをインストールする必要があります。

ネットワークからオペレーティングシステムをインストールする手順については、『Solaris インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。このマニュアルは、次の URL から入手できます。

`http://docs.sun.com/`

JumpStart サーバーのインストール

JumpStart™ サーバーを使用して OS をインストールすることができます。JumpStart サーバーは、次の複数のコンポーネントで構成されます。

- **インストールクライアント** — インストールまたはアップグレードの対象になるシステム。
- **ブートサーバー** — インストールクライアントにフェイルセーフオペレーティングシステムを提供するネットワーク。

  ブートイメージはアーキテクチャーに依存せず、オペレーティングシステムのそのリリースがサポートするすべてのハードウェアに、基本的なオペレーティングシステムサービスを提供します。ブートサーバーは、RARP、TFTP、および bootparam サービスを提供します。
- **構成サーバー** — クライアントシステムが固有のプロファイル情報を確認できるように支援するシステム。

  構成サーバーが提供するプロファイルには、パーティションのサイズ、インストールするソフトウェアコンポーネントのリスト、開始および終了スクリプトが指定されています。
- **インストールサーバー** — クライアントにインストールされるソフトウェアパッケージのソース。

注 – ブートサーバー、構成サーバー、およびインストールサーバーは 1 台のサーバーにすることができます。物理的にサーバーを分ける必要はありません。

JumpStart サーバーの構成

このマニュアルでは、JumpStart サーバーを構成する具体的な手順は説明しません。ただし、JumpStart サーバーの構成には次の作業が含まれます。

1. Solaris OS の読み込み。
2. 構成サーバーの作成。
3. 構成ファイルの作成。
4. 構成ファイルの構文の確認。
5. インストールディレクトリの共有。
6. NFS サーバーの起動。
7. クライアントアクセスの構成。

JumpStart サーバーの構成および使用法は、使用するネットワークの構成によって異なります。JumpStart サーバーの構成に関する手順および説明の詳細は、次の文書を参照してください。

- 『Configuring JumpStart Servers to Provision Sun x86-64 Systems』、Pierre Reynes 著、Network Systems Group、Sun BluePrints™ OnLine、2005 年 2 月
- 『Building a JumpStart Infrastructure』、Alex Noordergraaf 著、Enterprise Engineering、Sun BluePrints OnLine、2001 年 4 月

これらの文書は、次の Web サイトから入手できます。

`http://www.sun.com/blueprints`